

年頭のご挨拶

天然ガス鉱業会
会長 梶田 直

新年明けましておめでとうございます。

令和3年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

皆様には、例年とは異なり静かな年末年始を迎えられたことと推察いたします。

昨年を振り返りますと、1月には国際地質科学連合において日本の地名としては初めて千葉県市原市田淵の露頭が「チバニアン」と名付けられることとなり明るくい出でした。

しかし、その後は新型コロナウイルスに振り回される一年となりましたが、1月以降、世界では未曾有の感染の拡大が始まり、移動の制限など様々な対策が取られ、航空産業、観光業、飲食業など多くの業界に影響を及ぼすところとなりました。

世界中で様々な需要が減退する中、油価も低迷する状況となり、新たな上流開発投資も縮小を余儀なくされました。

我が国においても4月には緊急事態宣言が発出され、当業界をはじめ国内の多くの企業がテレワーク等新しい働き方への改革が求められました。一方、国民は自粛生活を強いられ、これに伴い需要が減少し景気の低迷を招きました。そのような状況に対し、政府では数次の補正予算を組み、新型コロナウイルス感染対策を行うとともに経済対策も打ち出しましたが、依然として感染の終息は見通せない状況にあります。

こうした社会情勢の中、政治においては9月に総理大臣が交代し、新たに菅政権が発足しました。そして、菅総理は10月26日の臨時国会の所信表明において、今後取り組むべき政策の一つとして、我が業界へも多大に影響がある「2050年カーボンニュートラル、脱炭素化社会の実現を目指す」ことを宣言しました。

これらの動きを受け、総合資源エネルギー調査会の各分科会等においても、エネルギー・レジリエンスの向上、2050年カーボンニュートラルの実現などを踏まえた次期エネルギー基本計画の見直しの検討を開始しました。

併せて令和3年度の政府予算案では、感染拡大防止に加え、デジタル社会・グリーン社会の実現などの政策予算を増額し、脱炭素化対応が強化されています。エネルギーの安定供給を担いながらのカーボンニュートラルの実現は非常に重い課題ですが、わが業界としても低炭素化、脱炭素化に向けエネルギー産業の一員として真摯に取り組んでいかなければならないと考えています。

年末には、「はやぶさ2」が見事にミッションをクリアし、小惑星リュウグウのサンプルを無事持ち帰るという偉業を達成し、我が国の技術力の高さを示す明るいニュースもありました。この様な我が国の技術力をもってすれば脱炭素化も可能になるのではないかと期待するところです。

また、今年、京葉天然ガス協議会が設立60周年を迎えます。京葉地区では、これまでの約60年間で260億m³の天然ガスを生産し、千葉の需要家へ安定的に供給し、産業・生活を支えてきており、重要な役割を果たしてきました。

一昨年は、9月から10月にかけて3度にわたり台風が東日本を襲い多くの被害が出ましたが、幸いにも昨年は台風の上陸もなく大きな災害は発生しませんでした。しかし、災害はいつ起こるかわかりませんし、今回のような感染症の拡大などにより、安定供給が危ぶまれる事態も考えられます。それらに備えるべく、鉱業会では、昨年感染症対策も盛り込んだ「天然ガス生産供給BCPガイドライン」を作成しました。

我々は、微力ではありますが、エネルギー安全保障の一端を担っております。新型コロナウイルス禍の終息が見通せない中、しっかりと感染対策を施し、国産天然ガスの生産を維持拡大すること、安定供給を図ること、これを事故なく実施していくことに加え、新たな課題であるカーボンニュートラルに貢献していくことが我々の使命であると考えます。

会員の皆様には、なお一層のご支援とご協力をお願いします。また、関係行政機関におかれましては、今後とも引き続きご支援ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

最後に、皆様の益々のご健勝と会員・会友の益々のご発展をお祈り申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

以上